

武蔵村山市立歴史民俗資料館報

# 資料館だより

第 18 号

平成 5 年 3 月 31 日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市本町5-21-1 TEL 0425(60)6620



カ タ ク リ

## 野山北公園の植生について(2)

東京都立小平西高校教諭 (石橋正行・川口清隆)

東京都立小平西高校自然研究部O.B.

( 蔭山一人・須藤弘樹・佐藤史章・小松崎圭子 )  
( 野崎潤一・奥原幸男・千葉朋子 )

### 1 植生(草本)概要

公園の大部分はコナラ、アカマツなどの樹木を中心とした雑木林である。また湧水も多く、大きな湿地を3カ所形成し、植生に大きな影響を与えている。

公園内林床はアズマネザサが広く分布しており、特に湿地との境の林縁では大きく成長し、ササ林を形成している。

林縁を除くと、林床は半日陰となりササはかなり数が減り、代わりにフジ、ヤマウルシ、コアジサイなどが点在している。うす暗い林床では常緑つる性のキズタ、テイカカズラが樹木にからみつき、林床を被っている。

また林床にはヒサカキ、カシ類、アオキ、イヌツゲなどの陰樹も芽を出している。特に人の入らない林床では、これらの木々が歩くのに困難な程、密に成長している。そして、こうした林床のすき間に雑木林を色どる様々な野草の姿をみることができる。

湿地を囲む北向き斜面は、湿った半日陰を好むカタクリとサイハイランの群生が特徴的である。またその上方から尾根にかけての斜面にはカントウカンアオイが分布を広げている。クモキリソウ、イカリソウ、ヒトリシズカ、ホウチャクソウもこの北向き斜面にのみ分布していた。また公園内に多いチゴユリやヤマジノホトトギスも多くはこうした場所に自生している。

湿地を囲む南向き斜面は光量が多く乾燥している。ここにはセンボンヤリ、ジュウニヒトエの小群落の他に、シュンラン、リュウノウギクなどの自生が特徴的である。シュンランは丘陵全体に広く分布しているが、特にこの南向き斜面に多い。

日当りの良い湿地では、コガマ、サンカクイ、クサヨシなどがみられる。またこれらの回りは秋になると、ミゾソバで被われる。

尾根近くの林床には年降水量1,500ミリ以下の乾燥した所に生育するクチナシグサが自生している。さらに、リンドウとギンランの大きな群落もこうした場所

にみられる。

尾根の林床を切り開いた風通しの良い半日陰の土手の草むらに、センブリとヤマホトトギスが芽を出していた。

その他、林床の広い範囲にわたって分布しているものをあげると、カンスゲ、キンラン、キッコウハグマ、イチヤクソウ、オオバノトンボソウ、フタリシズカ、カシワバハグマ、ヤマユリ、ヒメノガリヤス、ギンリョウソウ、ヤマハッカ、ヤブタバコ、シラヤマギクなどである。

公園内には裸地が数カ所あり、雑木林の林床とは違った景観を呈している。タケニグサ、オトコエシ、ヨウショヤマゴボウが群落をつくり、タラ、リョウブ、ゴンズイなどの若木が育っている。これらの合間を埋めるようにコバギボシ、ヤクシソウ、イヌコウジュなどの姿もみられる。また、裸地と雑木林の林床との境にはオトギリソウ、アキノキリンソウ、リンドウなどが増えていた。

公園北向き斜面の一部には、ノブドウやアレチウリが林縁の木々にからみついている。アマチャズル、カラスウリ、イシミカワ、ヤマノイモ、クズなどのつる性植物も林縁のあちらこちらに分布している。

公園内の谷には空き地があり、草原の様相を呈している。秋、ススキやチカラシバ、クズなどで被われる場所は、春、タンポポ、ホトケノザ、オオイヌノフグリなどの花が咲き競っている。さらに、ムラサキケマン、ニリンソウ、ハルジョオン、キツネノアザミ、ウマノアシガタ、センニンソウ、ワレモコウ、ヨメナ、イヌタデなどの花が次々と咲き変わる。

以上、公園内には様々な植物の生育環境があり、大別すると、雑木林の林床と林縁、裸地、草地、湿地である。これらの場所で78科290種(コケ、シダは除く)の植物を確認することができた。

## 2 野山北公園みてある記(冬~春)

冬の雑木林、ザクザクと落ち葉を踏みしめながら歩く。歩くのを止めると「し〜ん」と静まりかえっている。早春よりずっと目を皿のようにして追いかけてきた林床の草花のことも忘れ、一面枯れ葉に敷きつめられた雑木林の中を歩くのがまた気持ち良い。

コナラを始めとして、さめ肌のようなザラザラとした模様が特徴のクヌギ。エゴノキは樹が多少黒みがかってさらっとした感じ。所々皮がはがれたようなモザイク模様をしたリョウブ。樹のたて筋をずっと手でたどっていくと、なるほどそれがねじれているのはネジキ。アオハダは多少緑がかり、イヌシデは灰白色と黒のたてじま模様をしている。他にヤマザクラ、クリ、ケヤマハンノキ、イロハカエデなどの姿をみることができる。葉の裏面が赤味があった常緑つる性のサネカズラはこの時期よく目立っている。

林床には茶色の枯れ葉の中に、緑のカンスゲやシュンランの葉を簡単にみつけることができる。相方とも葉がよく似ていてまちがえやすいが、シュンランの葉は中央がへこんで角ばっているので触ってみれば区別は容易につく。

歩き回っていると、公園北側の湿地の北向き斜面のササ林の中にサイハイランの葉をみつけることができた。アズマネザサの葉を少し太目にしたような葉で、これなど他に緑の葉がほとんどないこの時期でないと見過ごしてしまう。数えると60本程群生しており、このあたりではめずらしく、カタクリやイチリンソウの群落と共にぜひ保護していきたいひとつである。

常緑のアオキ、ヒサカキ、イヌツゲ、モミ、ヒイラギなどはこの時とばかり、樹間を通してさし込む日射しをめいっぱい受けとめている。ウラジロガシやアラカシなど所によっては人の背たけ以上に成長している。陰樹であるこれらの木々は夏、雑木林がコナラなどの葉に被われて暗くなってもわずかばかりの光で着々と成長していくことができる。そのまま放っておけば、数10年後にはコナラよりも大きく成長し、ついには雑木林の木々から光を奪い枯らしてしまうことになる。

丘陵の東側の北向き斜面のくぼんだ所に、30センチメートル程の長楕円形の大きなホオノキの葉が散らばっていた。見回すとすぐ目の前に青っぽい樹皮をした幹の太さが1メートル近くにもなるホオノキが1本、上空の林縁からつき出るようにすらりと伸び上って

た。公園内にはこれ1本しか成木はみられないが、公園西側の林床にはまだ1メートルに満たない幼木が10本近く育っている。5月に花を咲かせたあと、秋になると果皮にしっかり包みこまれたちょっとグロテスクな赤い実になる。種は暗い林床では発芽できず、くちばしの丈夫なコゲラやヒヨドリのフンとともに運ばれ、発芽のチャンスを待っている。この林床のホオノキも鳥によって運ばれ、運よく光を得て発芽したのであろう。雑木林に普通にみられる木ではあるが、数が少ないのはこうした理由による。

まだ寒い冬のこの時期、カントウカンアオイの葉が枯れ葉の中に埋もれている。枯れ葉をかきわけてその根元をみると、暗紫褐色の花弁をしたこれもグロテスクな花が3つ、4つと顔をのぞかせる。自家受粉で実を結ぶとのことで、その分布を1キロメートル拡げるのに1万年もの歳月がかかるといわれている。丘陵の湿地の北向き斜面に広がるこの花の気の遠くなるような歩み。いちばん大きな群落の幅から単純に計算すると、約1,600年前よりこの地に自生することになる。全く頭の下がる思いであるが、丘陵内の舗装道路にこの分布地域が分断されてしまっている姿には胸が痛む。コナラの林床に続くアカマツの林床にはこの花の姿をみつけることはできなかった。

3月10日、久しぶりに丘陵を歩く。街路樹として植えてあるマンサクやネジキの花が咲いている。公園南側の湿地より奥に広がるクリ畑の陽だまりでは、オオイヌノフグリ、ハコベ、ホトケノザが我先にと花を咲かせている。木の葉はまだ展開せず林床は春の陽が射し込んで明るい。カンスゲは花をつけ、シュンランのつぼみはふっくらしている。タチツボスミレの丸いハート型をした葉も広がり、湿地の北向き斜面にはカタクリが葉芽を出している。よくみると、これらの葉はみな1枚でどれも花芽を持っていない。花のつぼみは2枚の葉にそっとくまれて顔を出す。こうしてつぼみを持つまでに7~8年はかかる。公園内にみられるカタクリの群生地は数年前に比べ、大部東へ移動している。東側は足の踏み場もない程の群生状態、西側では大部その数が減っている。「いったいどうしたの」とカタクリの種を運ぶアリに聞いてみたいところである。西側では一部がササに被われていること、また深い穴がいくつかみられることから多分掘られてしまっ

たものもあるのだろう。これらのことで子孫が思うように増やせないまま、西側の群落は寿命が尽きつつあるのかもしれない。

暖冬の割に春先急に冷えこみ、春の花の咲き方が遅い。4月に入りやっと桜が咲き始めたが、その直前の丘陵は色々な植物の芽が一斉に吹き出してくる。南向き斜面の日あたりの良い場所の枯れ葉の中にセンボンヤリの黄緑色の葉が点々とみつかると。花はピンクと白がある。山菜の王様といわれるオケラや、ヤブレガサも名のごとく破れたカサをすぼめながら伸びてきている。イチリンソウはすでに一面の葉を広げて、アズマネザサに抗して自分達の生活場所を確保している。他にオオジシバリ、アメリカフウロウ、ミツバツチグリ、オニタビラコ、カキドオシ、ニリンソウと春を色どる植物の葉が目白押しである。

この頃、シュンランは花を咲かせていた。カタクリはやっとつぼみがふっくらしてきている。日当りの良い土手や草地ではタンポポ、ノウルシ、キランソウが咲いている。林縁のウグイスカグラの薄赤色の花もかわい。

春は何といっても雑木林の花がよい。4月初旬に咲いたセンボンヤリやカタクリが咲き終わる頃、丘陵はスマレでいっぱいになる。林床にはニオイタチツボスミレ、ツボスミレ、ナガバノスミレサイシン、タチツボスミレが咲いている。湿地を見おろすちょっと暗い中にはフモトスミレがかたまっている。オカスミレやスミレは日当たりの良い土手に点々としている。

この頃、林床では茎が角ばったシソ科のジュウニヒトエ、茎が丸いゴマノハグサ科のクチナシグサ、ユリ科のチゴユリなどもみられる。チゴユリは尾根から湿地へ向かう北向き斜面のうす暗い林床に多く、根元から長短のランナーを出し、仲間を増やし、群生している。

メギ科のイカリソウも咲き始めているが、もうわずかしかなく貴重な存在である。北向き斜面の2カ所にのみ、わずかに自生していた。林縁のヒトリシズカ、

ミヤマナルコユリ、湿地のセキショウ、ネコノメソウは花の盛りである。

この頃、2週間たつと公園の様相は大部変わっている。5月連休前タンポポは種になったものが目についた。カントウタンポポは公園南側の湿地の奥の草地に自生している。田と湿地のあたりを境にしてセイヨウタンポポと住み分けをしていたが、次第にセイヨウタンポポがカントウタンポポの地に進入している。日本の在来種は外来種に比べてどうも弱い。セイヨウタンポポは単為生殖を行い、種は2、3カ月に発芽し、花も冬の一時期を除き年中咲いている。対してカントウタンポポは必ず2株ないと受粉できない。また、種は翌年まで発芽せず、花も春のこの時期しか咲かない。

林床ではサイハイランが花芽をあげ、湿地へ向かう南向き斜面にかたまるヤマツツジは満開に咲いている。大部、数が減ってしまったが、黄色い花の目立つキンランも所々に咲いている。白い花のギンラン、ササバギンランは少し遅れて開花する。ランはラン菌に助けをもらい栄養を得ているため、掘られてしまうとこの関係が絶たれてしまう。この事をよく知ってもらいたい。そうすれば掘られてしまうこともなくなると思うが。

葉に油のしみのような斑点があり、すぐそれとわかるのはヤマジノホトトギス。もう30センチメートル程に伸びている。この花は湿地のすぐ上のうす暗い所に多い。その他、ヤマユリ、ギボシ、リンドウ、キッコウハグマと夏から秋にかけて咲く花がもう茎を伸ばし、葉を広げていた。リンドウは木を伐採した周りの林縁付近にかなり数を確認したが、雑木林の野草はある程度光が入らないと花が咲かない。そして、種をつくらせて増えていかなければ親の寿命が尽き、数がどんどん減ってしまう。今、人の生活に必要ななくなり、手入れのゆき届かなくなった雑木林をどう管理してゆけば良いのか、キンランやリンドウに代表される野草の消長に考えさせられてしまう。

(文責 石橋 正行)

### 春の野草花ごよみ (野山北公園)

種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1 フキ			●									
2 ネジキ			●									
3 カンスゲ			●●●	●								
4 シュンラン			△●●	●○								

種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5 カタクリ			× △ ● ○									
6 ウグイスカグラ			● ●		○							
7 タチツボスミレ			× ● ● ●									
8 ヒメカンスゲ			● ●									
9 センボンヤリ			⊗ ● ○									
10 カントウカンアオイ		●	⊗ ●									
11 オケラ			⊗									
12 クマシデ			●		●							
13 ニワトコ			△ ●									
14 カントウタンポポ			● ● ● ●									
15 セイヨウタンポポ	—		●		●							●
16 ヤブレガサ			⊗									
17 オオジシバリ			⊗ ● ●									
18 イチリンソウ			× ●									
19 ノウルシ			● ●									
20 ネコノメソウ			× ● ● ○									
21 ニオイタチツボスミレ				● ○								
22 フモトスミレ				●								
23 ツボスミレ				● ●								
24 ミツバツチグリ				● ● ○								
25 ジュウニヒトエ				● ●								
26 チゴユリ				△ ● ● ○								
27 ツツジ				△ ● ●								
28 モミジイチゴ				●								実
29 クチナシグサ				△ ● ●								
30 ムラサキケマン				● ● ●								
31 イカリソウ				●								
32 ヒトリシズカ				● ● ○								
33 フデリンドン				●								
34 クサボケ				△ ● ● ○								
35 オトコヨウゾメ				●								実
36 セキショウ				● ● ○								
37 アカシデ				●								
38 イヌシデ				●								
39 トウダイグサ				● ● ●								
40 スミレ				● ●								
41 キランソウ			●	●								
42 キンラン					● ○							
43 ギンラン					● ● ○							
44 サイハイラン					△ ●							
45 エビネ					●							
46 ニガナ					● ● ●							
47 ホウチャクソウ					× ●							
48 ササバギンラン					● ○							
49 フタリシズカ					● ○							

●花 △つぼみ ○花終わり ×葉 ⊗芽出し —花期



シュンラン



センボンヤリ



カントウカンアオイ



イチリンソウ



ジュウニヒトエ



ネコノメソウ



イカリソウ



フデリンドウ



キンラン



クチナシグサ



ヒトリシズカ



スミレ



ミヤマナルコユリ



ホウチャクソウ

寄 贈 資 料 (平成3年10月1日～平成4年9月30日)

区分 番号	寄 贈 者		寄 贈 品		区分 番号	寄 贈 者		寄 贈 品								
	氏 名	住 所	品 名	数 量		氏 名	住 所	品 名	数 量							
1	荻野直久	三ッ木2-7-6	刀 架 け	1	9			飼料用チョッパー	1							
			臼	1				足 温 器	1							
			石 鏟 他	10				万石ドオシ	1							
2	野島弘久	岸3-27-10	挟 箱 他	6				10	川島政雄	本町4-13-6	ク ワ	1				
3	乙幡忠一	中央2-26-1	台 秤 り	1							穀 箱 他	5				
4	清水喜義	中央4-40-1	脱 穀 機	1							11	山崎典雄	三ッ木1-54-1	脱 穀 機	1	
			押 切 り	1										カ ゴ	1	
			火 鉢	1										八 本 骨	1	
			釜	1											青 年 団 報	1
			フリコミジョレン	1											習 字 教 本	9
			ク ワ 他	6											辞 書	10
5	荒畑明子	岸2-20-7	甲 冑	1							書 籍	424				
6	渡辺節子	神明3-11-1	天 秤 秤 り	1							雑 誌	47				
7	中村輝夫	岸3-10-1	寛 永 通 宝	96	記 念 誌	5										
8	荒幡清三	三ッ木1-45-5	唐 箕	1	12	塩原昌昭	緑が丘 1460-249-1				辞 書	5				
			蒸 籠	1							書 籍	122				
			大 釜	1				雑 誌	25							
			麦 ブ ル イ	1				二 重 回 し	1							
			醬 油 甕	4					書 籍	8						
			杵	5	13	波多野登志夫	伊奈平5-60-3									

資料館利用状況 (平成3年4月1日～平成4年3月31日)

区分 月別	開 館 日 数	総利用者数	市 内		市 外	
			人 数	割 合	人 数	割 合
H3・4	24日	610人	388人	63.6%	222人	36.4%
5	24	782	290	37.1	492	62.9
6	19	377	179	47.5	198	52.5
7	25	1,254	872	69.5	382	30.5
8	26	1,645	931	56.6	714	43.4
9	23	609	282	46.3	327	53.7
10	25	1,039	624	60.1	415	39.9
11	24	1,283	492	38.3	791	61.7
12	21	465	284	61.1	181	38.9
H4・1	23	619	367	59.3	252	40.7
2	23	1,082	805	74.4	277	25.6
3	24	828	553	66.8	275	33.2
合 計	281	10,593	6,067	57.3	4,526	42.7